

(令和5年3月実施)

令和4年8月16日

令和5年度県立高等学校入学者選抜

第2次募集に関する変更等について

変更等の主な背景

- 令和3年度から実施されている中学校学習指導要領では、学習の基礎となる「知識及び技能」を身につけたうえで、それらを活用する「思考力、判断力、表現力等」の資質・能力を身に付けることが重要であるとしている。
- 中学校では、「他者と関わりながら課題解決に向かい『問い』が生まれる授業」を目指し、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に取り組んでいる。
- 学力検査について、思考力等を問う問題の出題を工夫してほしい等との意見が毎年出されている。
(国語)「本文中にある記述を抜き出す問題が多い。自分自身の言葉でまとめるような問題もあるとよいと思う。」
(社会)「複数の資料から『どうしてそうなるのか?』と思考を巡らせて回答する問題を出題するなど、工夫が必要。」
(数学)「中学校では、自分で考察し、条件を選択し、論理的に記述させるように指導している。穴埋め形式の証明問題は改善してほしい。」

中学生が、日々の授業で身に付けた思考力・判断力・表現力等を適切に評価するため、高校入試における学力検査問題について、思考力等を問う問題の改善を図る必要がある。

以上のことから、下記の2点について変更する。

変更1 学力検査問題の取り扱いについて

① 思考力等を問う記述式問題について、“穴埋め形式”等から“記述形式”へ改善

- これまで、思考力等を問う記述式問題については、ほとんどが誘導形式や穴埋め形式で出題されてきたが、これを“記述形式”へ改善する。
- 中学生がこれまでに身に付けた思考力・判断力・表現力等をより一層発揮できるような問題にする。

② 思考力等を問う記述式問題の採点については、

県教育委員会が示す解答例等をもとに、各学校で判断できるよう改善

- “記述形式”に改善した思考力等を問う記述式問題では、受検生による様々な解答・解法が想定され、採点の統一性に課題がある。
- 各学校の採点業務において、入試日程等の関係上、迅速な対応が求められる中、多様な解答に対する検討に時間を要する。

③ 思考力等を問う記述式問題の配点は、5教科とも60点満点中10点に統一

- これまで、思考力等を問う記述式問題の配点実績は、10点前後の配点であった。
- 5教科統一の配点とすることで、各教科間の比較・分析ができるようにする。

変更2 第2次募集に関する変更について

第2次募集における学力検査の成績は、改善した思考力等を問う記述式問題以外の得点を成績として採用

- “記述形式”に改善した思考力等を問う記述式問題については、県教育委員会が示す解答例等をもとに、各学校ごとに判断し、採点する。
- 学力検査の成績は、県立高等学校入学者選抜の資料の一つとして、公平性が求められる。
- 以上のことから、複数校から選抜資料を受ける第2次募集においては、学力検査の成績に改善した思考力等を問う記述式問題以外の得点を成績として採用する必要がある。

調査書

+

学力検査の成績 ※

+

面接

※ 5(教科) × 50(点) = 250(点) 満点

<参考> これまでは、5(教科) × 60(点) = 300(点) 満点

推薦入試から特色選抜へ

県立学校教育課

「特色選抜」の目的

志望学科への興味や関心及び適性を有する者を選抜するという、**これまでの推薦入試の趣旨を今後も継承**しつつ、生徒が**主体的な学びに向かう力の育成**と中学校までの**基礎学力の確かな定着**を図り、特性や個性の一層の伸長につながる選抜とする。

現行の推薦入試の課題

沖縄県高等学校入学者選抜制度のあり方について(報告書)より
平成30年12月 沖縄県立高校入学者選抜制度改革に関する検討委員会

◆ (現行推薦入試制度は) 早期合格の手段としての傾向が強く、**本来の趣旨が活かされていない**との懸念

◆ **推薦合格内定者の一部に、その後の学習意欲の低下**が見られ、一般入試に向けた学習環境に影響を及ぼすこともあり、義務教育段階の学習内容の確実な定着に課題

◆ 各中学校によって**推薦基準が異なることによる不公平感**の指摘

「特色選抜」の基本方針

①生徒が自ら出願できる

- 学校推薦ではなく、生徒本人による出願とすることで、意欲的な学習の態度や主体的な進路決定を促す。

②生徒の特性や個性を伸ばす

- 受検生の志望校を決定するための資料として、各学校・学科の特色をより明確に示すための「育成したい資質・能力」や「目指す生徒像」を作成する。

③学力検査を全員受検する

- 義務教育段階の学習内容の確かな定着を図る。

④受検機会をこれまでどおり確保する

- 現行では推薦入試と一般入試で最大2校へ出願する機会があり、受検機会を維持する。

※ICT活用を推進する

- 出願システムや採点業務の効率化、複雑化する処理データの一元化等が必要となる。

スケジュール (予定)

年度(学年)	R4(中1)	R5(中2)	R6(中3)
取組事項	「育成したい生徒像」の作成・配布		R7 2月 実施
	実施要項決定		
	説明会 ← 生徒・保護者		
	説明会 ← 学校等関係者	説明会 ← 受検希望者	

特色選抜について - 入試制度はどのように変わるのか -

県立学校教育課

